



「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.



明治大学図書館の現状と課題

2010年1月22日

学術情報基盤部会資料

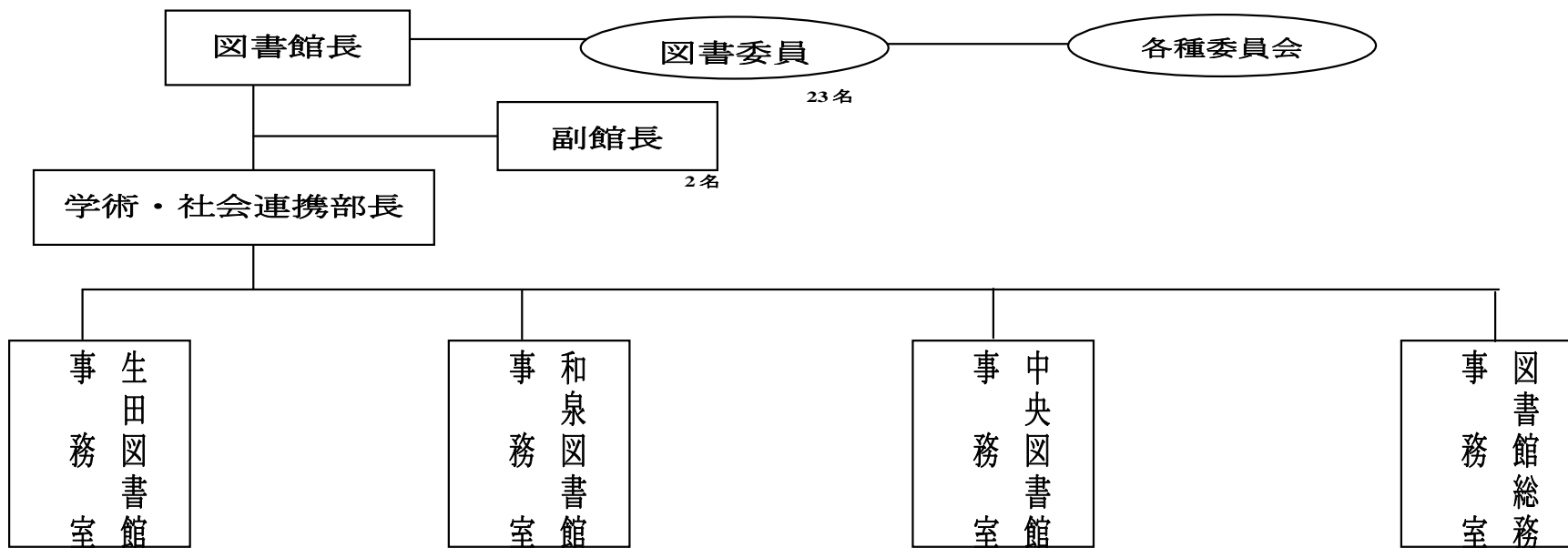
報告者：明治大学図書館長，文学部教授

吉田正彦

- 9学部, 9研究科, 3専門職大学院, 法科大学院より構成
- 学部生約28,700名, 大学院生2,500名
- 専任教員798名, 兼任講師1,679名, 専任職員514名(2008年度)
- 2011年度に創立130年を迎える

- 中央図書館(駿河台校舎)和泉図書館(和泉校舎)生田図書館(生田校舎)から構成
 - ・中央図書館:人文社会系3・4年生・院生・研究者が対象
 - ・和泉図書館:人文社会系1・2年生が対象
 - ・生田図書館:理工学部・農学部学生・院生が対象
- 蔵書数約2,310,000冊(含博物館図書室)
- 雑誌数約24,500タイトル
- 年間入館者総数約1,815,000人
- 2008年度資料予算約7.45億円

2009 年度 図書館組織構成図・職員構成



スタッフ (2009.6.1 現在)

	部長		事務長		課員		専任計	嘱託		委託		派遣		合計
	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	
部	1						1							1
図書館総務事務室			1		5	8	14		3		13		1	31
中央図書館事務室			1		1	6	8			5	17		2	32
和泉図書館事務室			1		0	4	5			6	7		1	19
生田図書館事務室			1		1	4	6			3	11		2	22
計	1		4		7	22	34	0	3	14	48	0	6	105

1. 学術情報の蓄積と提供

- 学術雑誌の高騰と図書館資料費の動向
- 学術情報の電子化

2. 利用者サービスの変化

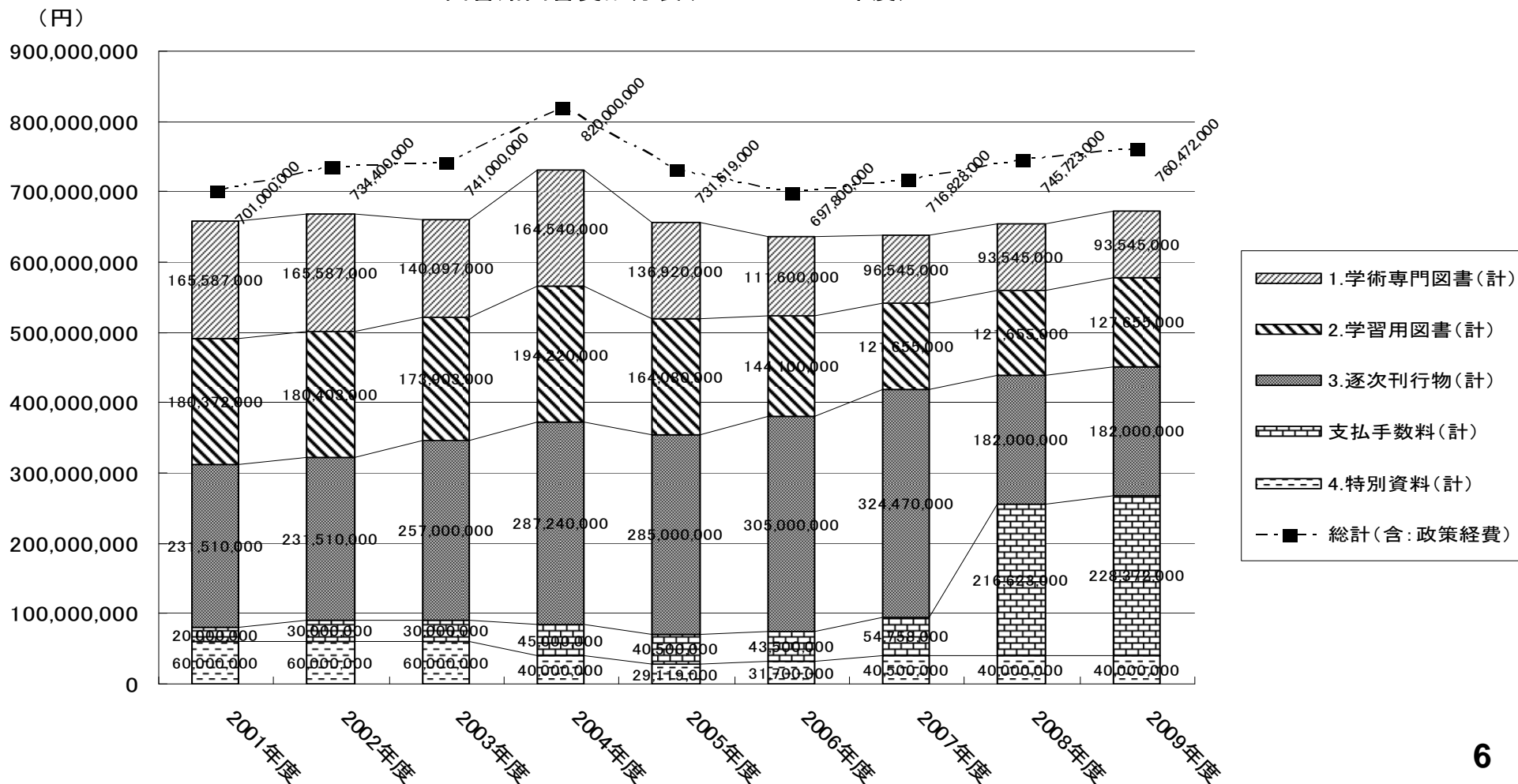
- これまでのサービス拡大
- 図書館ネットワークの構築
- Webベースサービスシステムの充実
- 図書館リテラシー教育の充実

3. 要員問題

- 専任職員の減少と業務委託の拡大
- 図書館職員育成体制の再構築

1. 図書館資料費の推移 (1)

図書館図書費配分表(2001～2009年度)



1. 図書館資料費の推移 (2): 2001年と2009年度の比較

- この10年間総額に大きな変化なし
 - 学術雑誌の高騰, 電子資料費の増大
全体予算の36%から59%へ
 - 学術専門図書費の縮小
全体予算の24%から13%へ
 - 学習用図書費の縮小
全体予算の26%から18%へ
- * 学術雑誌高騰に対する抜本的対策の必要性
* 資料費配分方針の見直し

2.資料の電子化

- 電子ジャーナルの拡大
 - ・利便性の拡大
 - ・経費削減を目的とした紙媒体学術雑誌から電子ジャーナルへの移行
 - 所蔵資料の電子化
 - ・2001年度から年間予算500万円程度で貴重資料等の電子化・公開を推進
 - 機関リポジトリの構築
 - ・2008年3月公開(約4,000論文収容)
- * メディアの変化に対応したスキルの変化
* 経費化する資料費



1. これまでのサービス拡大

➤ 開館時間の拡大

- ・8:30～19:00(1993年)を22:00に延長

➤ 開館日の拡大

- ・休日開館の実施
- ・冬季休業中開館の実施

➤ 貸出期間, 冊数の拡大

➤ 閉架書庫の開放

➤ 情報機器, ネットワーク設備提供の充実

2. 図書館ネットワークの構築

- 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム
 - ・青山学院大, 学習院大, 國學院大, 東洋大, 法政大, 明治学院大, 立教大, 明治大の8大学で構成
 - ・コンソーシアム他大学の明治大学利用, 8,974名 (2008年度)
- 杉並図書館ネットワーク
 - ・杉並区図書館, 女子美術大学杉並図書館, 高千穂大学, 東京立正短期大学, 立教女学院短期大学, 明治大学和泉図書館の6図書館

3. Webベースサービスシステムの充実

➤ 図書館ポータルシステムの稼動

- ・貸出, 予約, 購入依頼, 文献複写依頼, 相互貸借依頼, 文献配送依頼等

➤ オンラインナレッジシステム

- ・調査依頼
- ・ナレッジデータベースの構築

➤ 読書ノート, ユーザレビュー登録

- ・OPACにてレビュー公開

* 利便性の向上と対面サービスの減少

4. 図書館リテラシー教育の充実(1)

- 『「教育の場」としての図書館の積極的活用』として2007年度, 特色GPに採択
- 学部間共通総合講座「図書館活用法」
 - ・半期2単位の授業
 - ・482名が履修(2008年度)
 - ・教員8名, 図書館職員28名が講義担当
- 「図書館活用法」授業評価活動
 - ・プログラム評価技法の導入
 - ・評価活動に基づくカリキュラム改善

4. 図書館リテラシー教育の充実 (2)

➤ゼミツアーの実施

- ・少人数授業の1コマで図書館活用法を説明
- ・4,459名が参加(2008年度, 3地区合計)

➤出前講義

➤各種講習会の実施

➤新入生オリエンテーション

➤その他

- *リテラシー教育効果測定の困難さ
- *リテラシー教育スキル養成の必要性



1. 専任職員の減少と業務委託の拡大

➤ 専任職員数の推移

- ・67名(1993年)⇒51名(2001年)⇒34名(2009年)

➤ 大学の業務委託化政策

- ・嘱託職員から業務委託へ

- ・嘱託職員51名(2001年)⇒9名(2009年)

- ・業務委託職員約65名(2008年)

➤ 図書館システム担当専任職員の位置付け

- * 専任職員業務の空洞化

- * 業務委託範囲の明確化とコンプライアンス



2. 図書館職員育成体制の再構築

- 従来のキャリアパス設計の崩壊
 - ・ 目録をとったことがない図書館員
 - ・ 学術情報の多様化への対応
 - ・ サービスの多様化への対応
- 大学職員としての図書館員の位置付け

* 図書館職員育成制度の再構築



- 添付資料: 2008年度図書館年次報告書
- 「教育の場」としての図書館の積極的活用: 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)パンフレット
- 明治大学図書館ホームページ
<http://www.lib.meiji.ac.jp/>